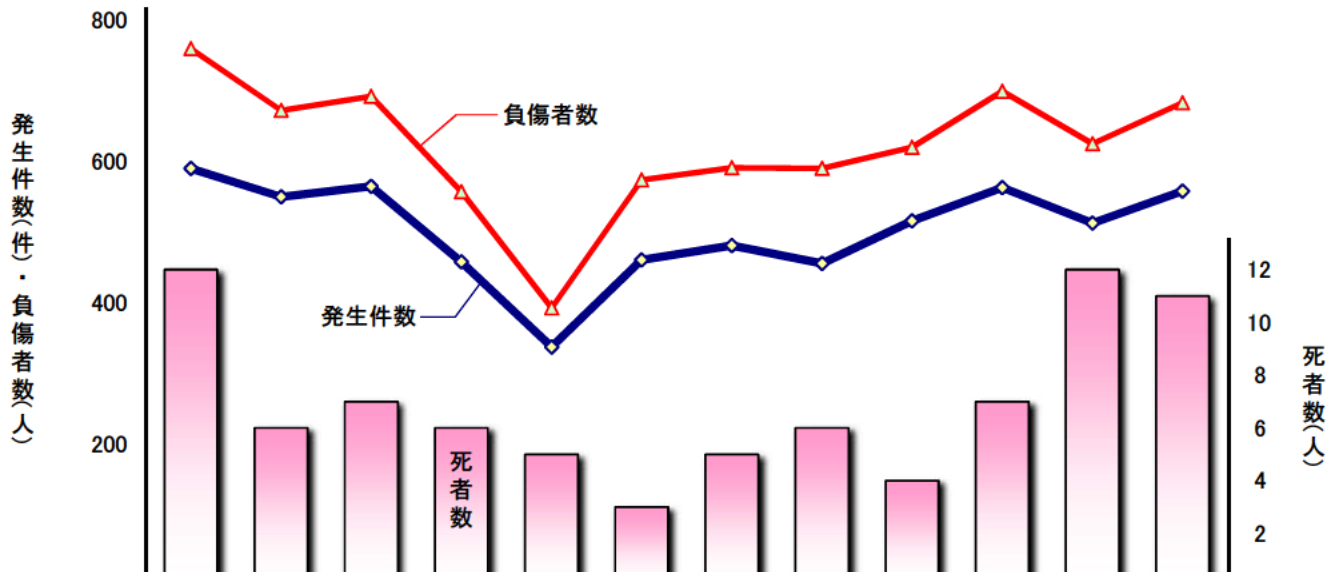


(7) 月 別

発生件数は「1月」が最も多く、「5月」が最も少なくなっています。
 死者数は「1月」・「11月」が最も多く、「6月」が最も少なくなっています。

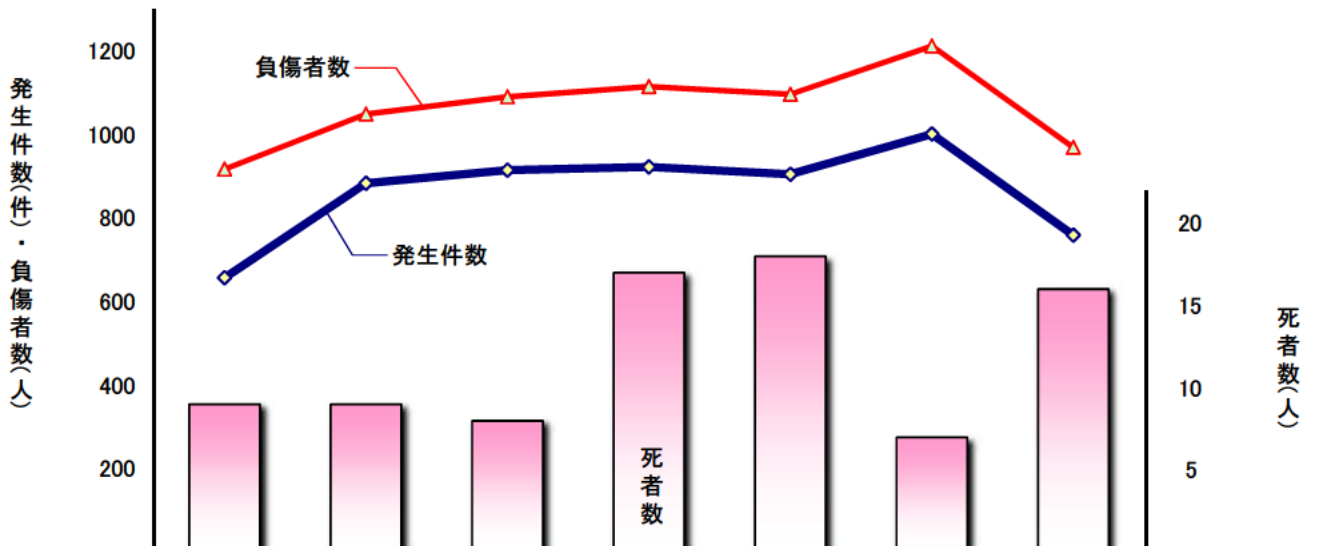


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
発生件数	590	550	565	458	338	461	481	456	516	563	513	558	6,049
死亡事故件数	12	6	7	6	5	3	5	6	4	7	12	11	84
死者数	12	6	7	6	5	3	5	6	4	7	12	11	84
負傷者数	759	672	692	557	393	574	591	590	620	699	625	683	7,455

※1 死亡事故件数は発生件数の内数。以下同じ。
 2 月区分は計上月による。

(8) 曜日別

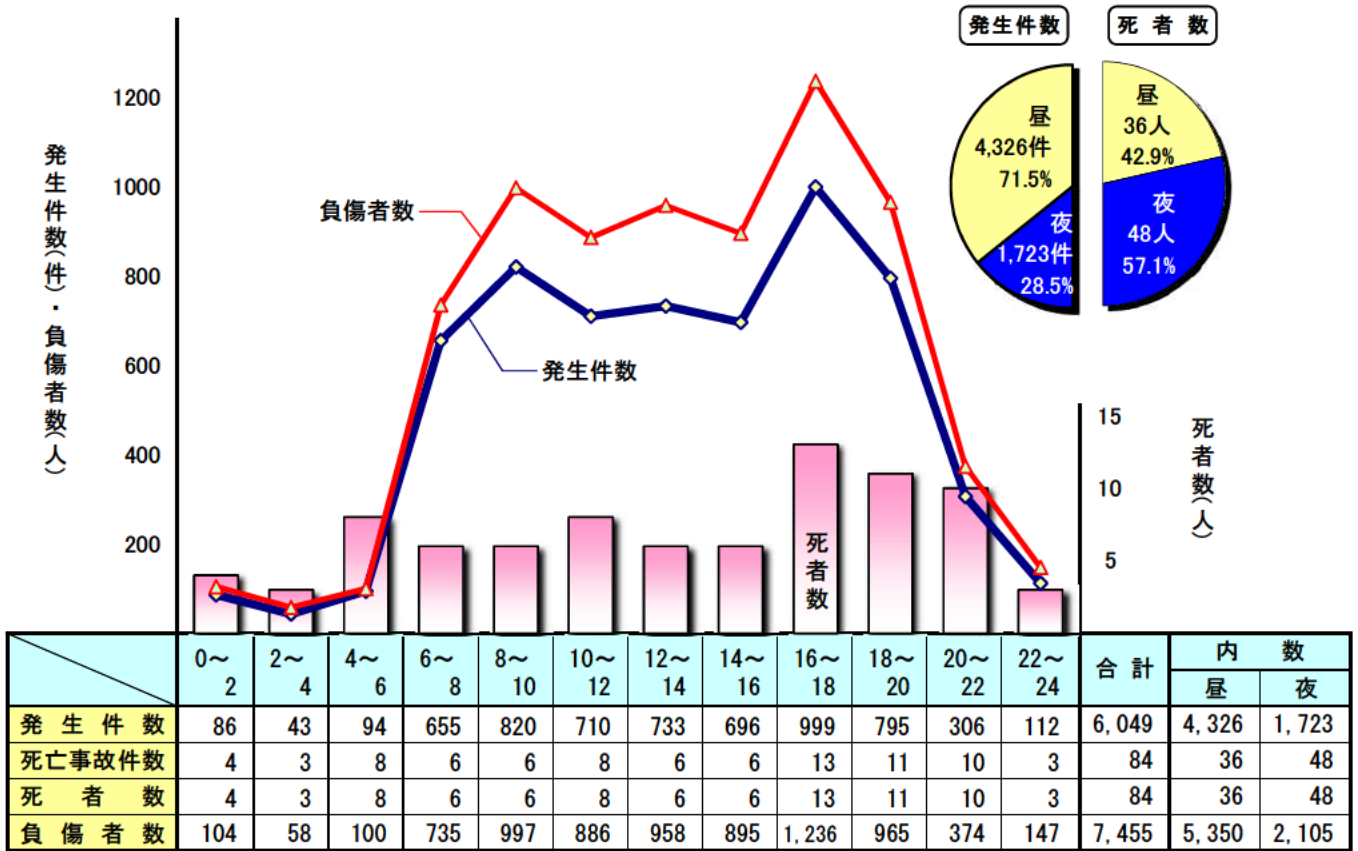
発生件数は「金曜日」が最も多く、「日曜日」が最も少なくなっています。
 死者数は「木曜日」が最も多く、「金曜日」が最も少なくなっています。



	日 曜	月 曜	火 曜	水 曜	木 曜	金 曜	土 曜	合計
発生件数	658	884	916	923	906	1,002	760	6,049
死亡事故件数	9	9	8	17	18	7	16	84
死者数	9	9	8	17	18	7	16	84
負傷者数	918	1,050	1,091	1,116	1,097	1,213	970	7,455

(9) 時間・昼夜別

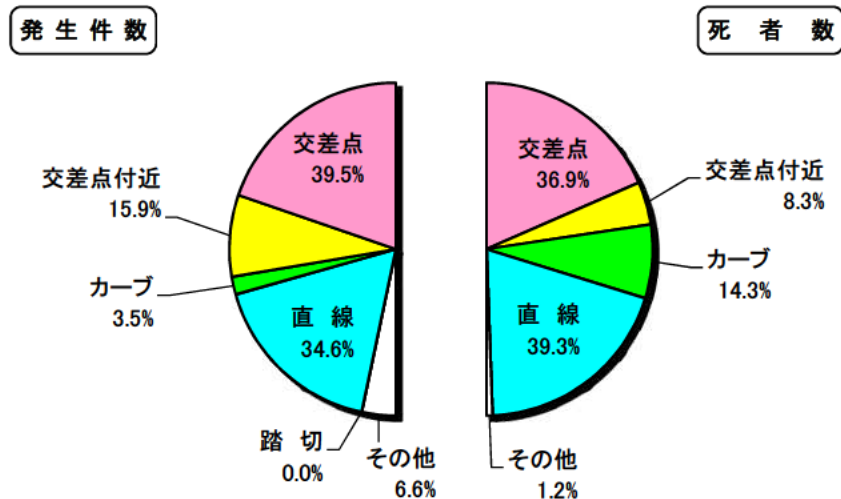
発生件数は「16～18時」、「8～10時」の順に多く、死者数は「16～18時」が最も多くなっています。
 昼夜別では発生件数は昼間(構成率71.5%)、死者数は夜間(構成率57.1%)が多くなっています。



※ 昼夜の区分は、日の出、日没を基準とした。

(10) 道路形状別

発生件数は「交差点」、「直線」の順に多く、死者数は「直線」、「交差点」の順に多くなっています。



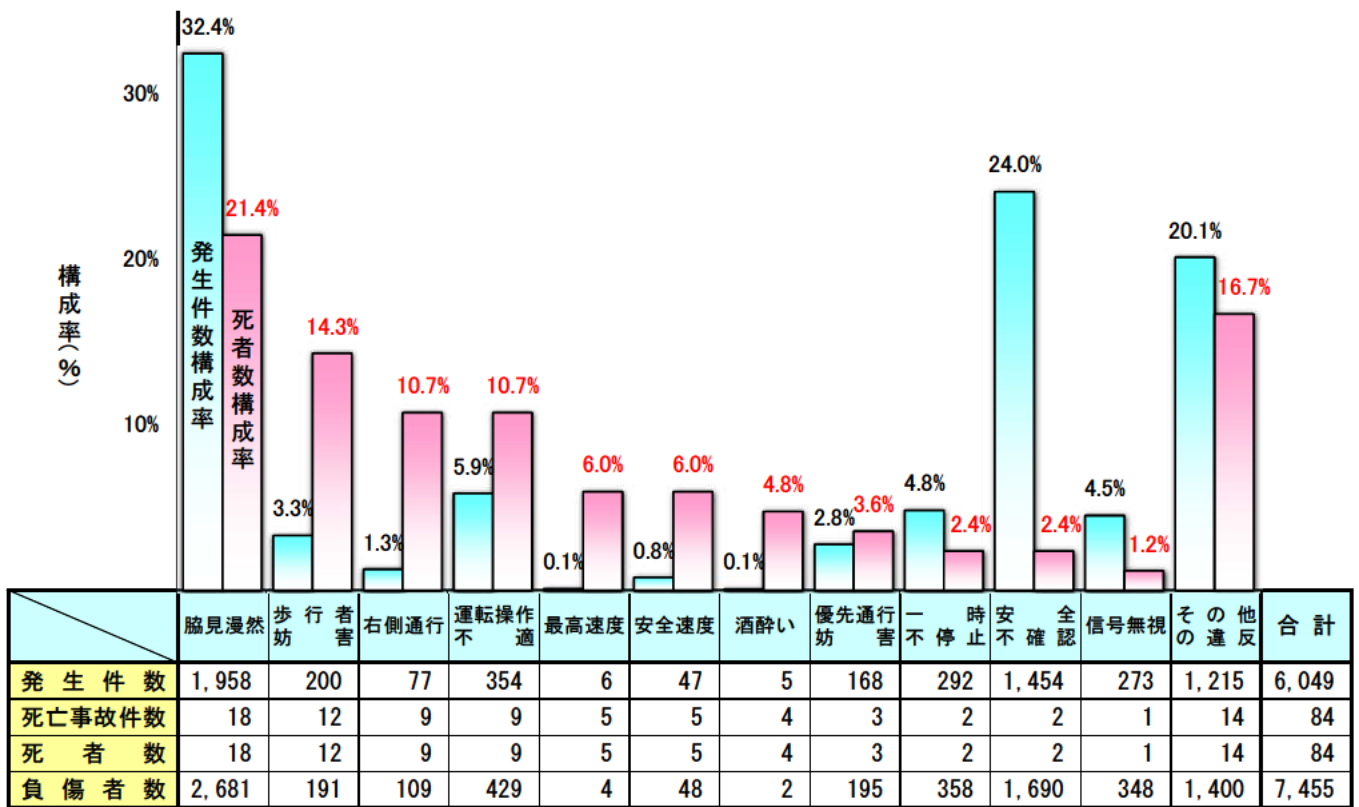
	交 差 点	交 差 点 付 近	カ ー ブ	直 線	踏 切	そ の 他	合 計
発生件数	2,387	960	209	2,095	1	397	6,049
死亡事故件数	31	7	12	33		1	84
死者数	31	7	12	33		1	84
負傷者数	2,763	1,214	270	2,745	1	462	7,455

※ 「交差点付近」とは、交差点の側端から約30m以内の道路をいう。

(11) 第1当事者の原因別

発生件数は「脇見漫然」が最も多く、次いで「安全不確認」の順となっています。

死者数は「脇見漫然」が最も多く、次いで「歩行者妨害」の順となっています。

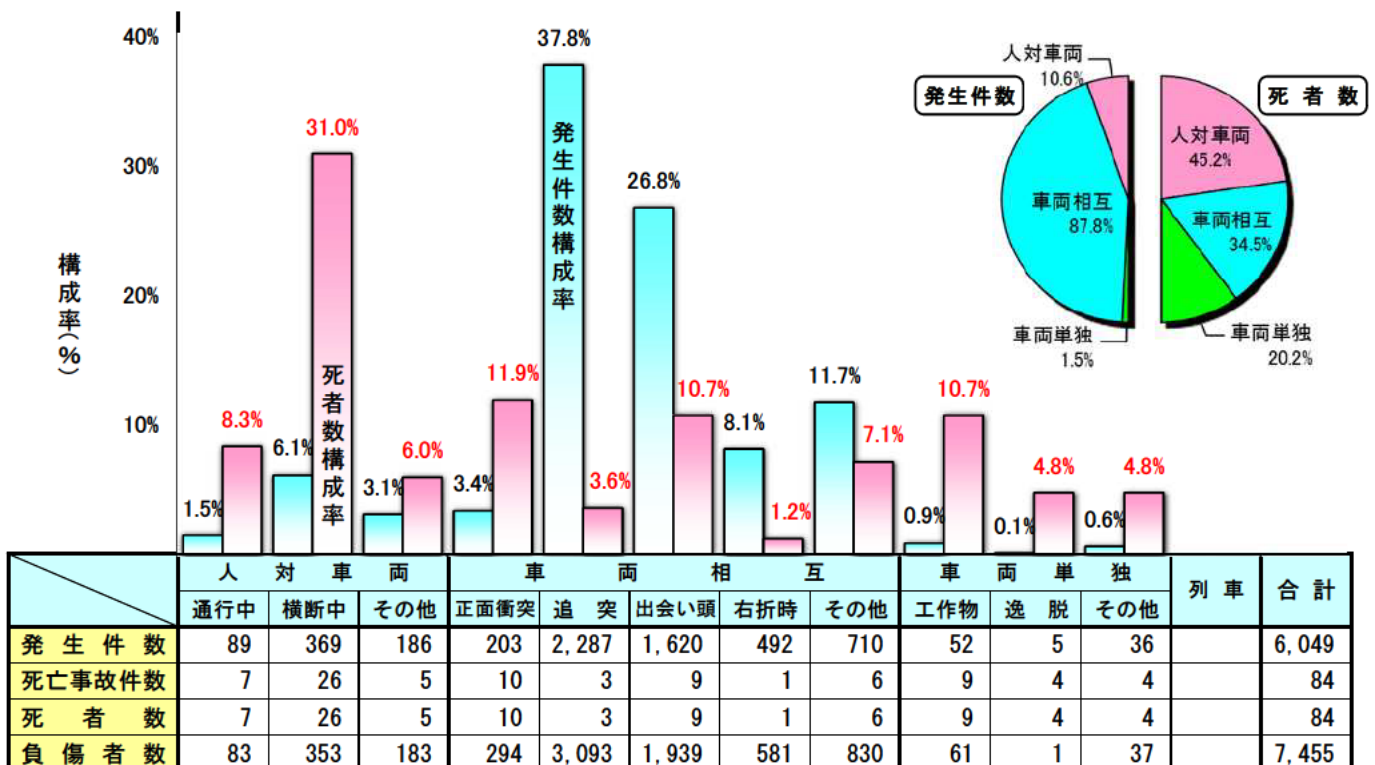


※ このグラフは「発生件数」及び「死者数」の構成率比較である。

(12) 事故類型別

発生件数は「車両相互」が87.8%を占め、特に「追突」、「出会い頭」が多くなっています。

死者数は「人対車両」が45.2%を占め最も多く、小類型では「人対車両-横断中」が最も多くなっています。



※ このグラフは「発生件数」及び「死者数」の構成率比較である。

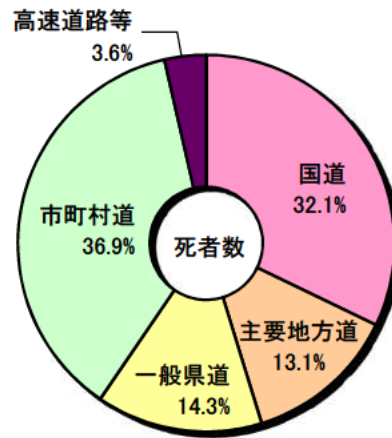
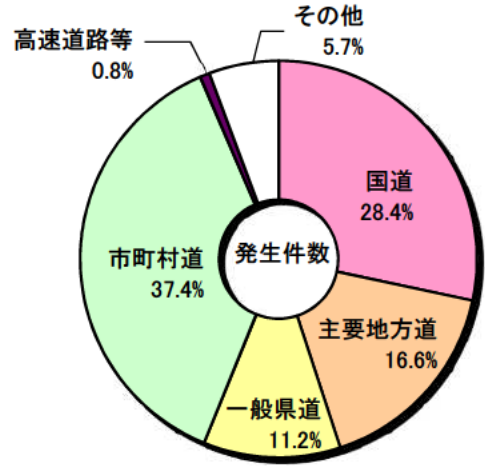
(13) 路線別

発生件数、死者数とも「市町村道」が最も多くなっています。

国道路線別では発生件数、死者数とも「6号」が最も多くなっています。

		発生件数	死亡事故件数	死者数	負傷者数
国 道	4号	47			62
	6号	519	6	6	670
	50号	210	2	2	291
	51号	97	2	2	123
	118号	76	1	1	97
	123号	19			23
	124号	82	3	3	113
	125号	146	1	1	190
	245号	68	2	2	85
	293号	18			29
	294号	83	1	1	115
	349号	48			63
	354号	152	5	5	186
	355号	63	2	2	85
	408号	78	2	2	97
	461号	9			11
小計	1,715	27	27	2,240	
主要地方道	1,005	11	11	1,254	
一般県道	676	12	12	833	
市町村道	2,262	31	31	2,673	
高速道路等	48	3	3	68	
その他	343			387	
合計	6,049	84	84	7,455	

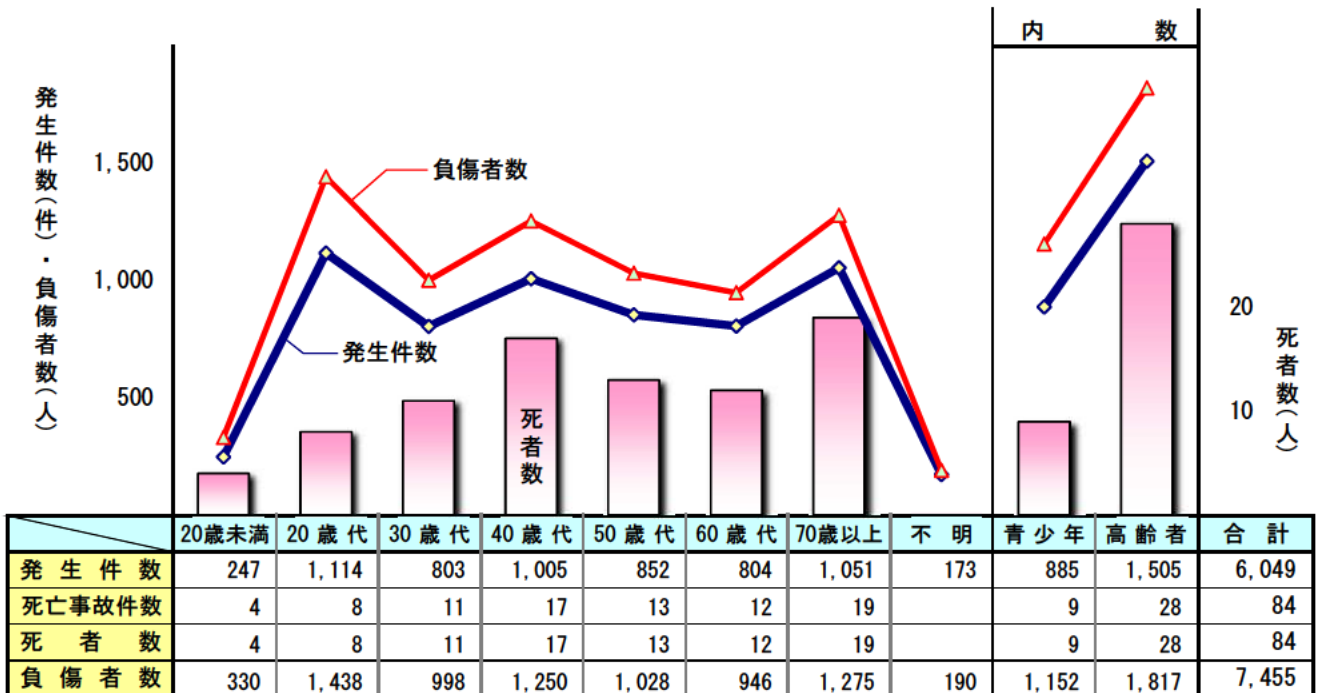
※ 高速道路等には、指定自動車専用道路を含む。



(14) 第1当事者の年齢層別

発生件数は内数の「高齢者」が最も多く、次いで「20歳代」となっています。

死亡事故件数は内数の「高齢者」が最も多く、特に「70歳以上」が多くなっています。



※1 死者数及び負傷者数は、各年齢層による事故の全死傷者で、本人が死傷しているとは限らない。

2 「青少年」は16～24歳、「高齢者」は65歳以上で、内数である。